

土木委員会委員協議会記録

1 会議の日時	開会 午前 9 時 55分 令和元年11月20日 閉会 午前 11 時 10分
2 会議の場所	土木委員会室
3 出席者	委員 委員長 高 殿 尚 副委員長 水 野 吉 近 藤 墳 守 平 岩 正 光 野 島 征 夫 林 幸 広 平 野 恭 子
	執行部 別紙配席図のとおり
4 事務局職員	課長補佐兼係長 青 木 陽 輔 主査 早 野 ひとみ

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 高速道路ネットワーク等の整備状況について	
2 ライフライン施設の機能強化について	
3 その他	

6 議事録（要点筆記）

○高殿尚委員長

それでは、ただいまから土木委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るため開催した。議題は、お手元に配布した「次第」のとおりである。

なお、執行部職員の出席については、今回の議題を所管する所属を中心に出席いただいている。初めに、「高速道路ネットワーク等の整備状況について」を議題とし、執行部の説明を求める。

（執行部挨拶：船坂都市建築部長）

（執行部説明：藤井道路建設課長）

○高殿 尚委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

○平岩正光委員

濃飛横断自動車道の全線開通を目指す中で、2027年のリニア中央新幹線開業を見据え当面の間は現道を利用することとし、現道区間で整備が必要である付知工区に着手したという認識でよいか。

○藤井道路建設課長

2027年のリニア開業効果を最大限波及させるために整備を進めている。

○林 幸広委員

東海北陸自動車道と東海環状自動車道の料金体系を具体的に教えてほしい。

○加藤幹線道路企画監

東海北陸自動車道は高速自動車国道であり、全国一律でキロ当たり24.6円、さらにターミナルチャージ150円に消費税が課される。東海環状自動車道は一般国道の自動車専用道路で国土交通省と日本高速道路株式会社の合併施工で整備が進められており、料金についてはキロ当たり34円の料金体系である。ただし利用距離が40kmを超える部分については24.6円になる。

○野島征夫委員

郡上－堀越峠区間は非常に難所であり、現在協議等進めていただいているところであるが、工事が早く実現するようにお願いしたい。

○藤墳 守委員

堀越峠の位置は。

○藤井道路建設課長

堀越峠は郡上八幡ICより東側に位置する箇所である。高低差は約300mあり、そこにかけてつづら折れの坂となっており、非常に交通難所な区間である。

○藤墳 守委員

整備はトンネル区間が大半となるのか。

○藤井道路建設課長

整備方法については、現在、国と協議しているところ。高低差約300mを踏まえると、大半をトンネル区間とする工法が良いのではないかとということで、案の1つとして検討している。

○藤墳 守委員

東海環状自動車道の三重県側における進捗状況は。

○藤井道路建設課長

三重県側の整備はあまり進んでおらず、その理由として、用地買収が完了していないことがあると聞

いている。

○藤墳 守委員

岐阜県側の進捗状況は。

○藤井道路建設課長

数件、用地買収が残っている。

○藤墳 守委員

リニアを利用する度合いはどの程度と考えるか。

○平岩正光委員

県内に効果を波及させるためには、二次交通が重要だと考える。名古屋も近く、観光、企業立地等を考えると中間駅どうしの競争にもなってくる。道路ネットワークをつなげ、県内を回遊してもらうことが、観光、防災、物流の面からも重要と考える。交通の要所は重要であり、せっかく来るであろう可能性に対し、最大限の努力をしていくことが必要である。本社機能誘致も先月2社締結しており、新たな人口の増加など、可能性を広げていきたい。

○平野恭子委員

(仮称)岐阜ICの周辺整備を進めてほしい。

○水野吉近副委員長

東海環状自動車道の東回りにおいて、2024年度までに完成する付加車線はどの区間か。

○加藤幹線道路企画監

土岐JCTから美濃加茂IC間の速度低下箇所であり、具体的には可児御嵩ICから南に約6kmの区間である。

○水野吉近副委員長

渋滞は発生しているのか。

○加藤幹線道路企画監

具体的な状況は聞いていないが、この区間はトンネルが多いため、速度が低下しやすい。その対策として付加車線が設置されると承知している。

○水野吉近副委員長

岐阜市内における国道21号の立体化があまり進んでいない要因やこれまでの経緯は。

○藤井道路建設課長

事業が進まなかった理由については定かではないが、岐阜市内立体は昭和49年に都市計画決定がされており、今に至っている。

○水野吉近副委員長

事業が前に進んだ要因として、昨年の国土交通大臣の現地視察もその1つとしてあげられるのか。

○藤井道路建設課長

要因の1つとして考えられる。加えて、本年2月に、知事自ら、同盟会や経済界とともに国土交通省に要望したことも、事業が進んだ要因として考えられる。

○水野吉近副委員長

立体化に関し、国から定期的に予算はついているのか。

○藤井道路建設課長

予算はついている。

○藤墳 守委員

一宮JCT付近の渋滞を解消する事業はあるのか。

○藤井道路建設課長

現在計画中の道路ではあるが、愛知県が一宮西港道路等で交通分散を図ることを検討している。

- 林 幸広委員
一宮 I C で降りる車両が渋滞の原因となっているのか。
- 藤井道路建設課長
一連区間が渋滞しているため、一宮 I C で降りる車両が原因とは一概に言えない。
- 藤墳 守委員
一宮西港道路を整備することにより渋滞状況は変わるのか。
- 藤井道路建設課長
交通分散が図られるため、渋滞緩和が見込める。
- 林 幸広委員
名古屋高速が岐南 I C まで延伸する計画はあるのか。
- 藤井道路建設課長
名岐道路が岐南 I C まで延伸する計画はある。ただし、現在は一宮中 I C から東海北陸自動車道一宮木曾川 I C までを優先整備区間として、国の検討が進められている。
- 高殿 尚委員長
今年度、中部縦貫自動車道の平湯から丹生川間が新規調査区間になったが、平湯 I C や丹生川 I C 周辺の道路ネットワークの整備についてどのように考えているか。
- 藤井道路建設課長
国では、中部縦貫自動車道等を対象にした飛騨北部地域の幹線道路網機能強化検討会が開催されており、周辺道路の課題や優先的に整備を行う区間について議論されている。県道の在り方についても検討会の中で検討していきたい。
- 高殿 尚委員長
質疑も尽きたようなので、これをもって「高速道路ネットワーク等の整備状況について」を終了する。次に、「ライフライン施設の機能強化について」を議題とし、執行部の説明を求める。

(執行部説明：岡田水道企業課長)

(執行部説明：川瀬下水道課長)

- 高殿 尚委員長
ただいまの説明に対して、質疑はないか。
- 平岩正光委員
県営水道の非常用発電機は全ての施設に設置されているのか、あるいは新たに整備するのか。
- 岡田水道企業課長
県営水道では、ポンプ場、浄水場など電気で動く施設が 20 施設あり、全ての施設で非常用発電機を整備しており、燃料も 24 時間分以上を備蓄している。
- 平岩正光委員
大容量送水管整備事業は災害対策としての先進事例と認識しているが、他府県の取組み状況も踏まえて、現況を教えてください。
- 岡田水道企業課長
もともと送水管は単線であり、老朽化対策で送水管を更新する際、水を止めずに行うためには複線化が必要となるが、県水道ではその複線化の事業を水道単独事業で進めてきた。しかしながら、阪神淡路大震災以降、送水管に貯水機能や応急給水拠点機能といった防災機能が認められることから、複線化事業に事業費の 1 / 3 の補助金が得られることになった。神戸市、大阪府、札幌市、福岡県に続き、岐阜県は 5 例目である。水道料金値下げも行いながら、順次進めているところ。

○藤墳 守委員

非常用発電機の燃料を24時間分以上備蓄するとしているが、こんなに短くてもよいのか。

○岡田水道企業課長

東日本大震災を踏まえた水道設計指針では24時間以上と定められており、それにより施設を整備している。なお、防災対策としては電源供給だけでなく、県と市町の給水タンクに24時間分の水を備蓄しているほか、東濃西部送水幹線による水の運用も可能となっている。

○藤墳 守委員

昨今の災害では2、3日で電気が復旧していない現状もある。このような想定をして対策すべきではないか。国の指針どおりの整備という考え方はどうかと思うが。

○船坂都市建築部長

非常用発電機は24時間分の燃料を備蓄し、さらなる燃料の補給体制も整えている。県営水道は市町村水道に給水するまでを担っているため、その後は市町村で対策を検討していただくことになる。その部分についても、県で指導・調整を行っていくためご理解いただきたい。

○水野吉近副委員長

水道管の耐震補強金具について、仕組みがよくわからないので教えてほしい。

○岡田水道企業課長

水道管には継手というものがあり、パッキンを押輪で押さえている構造であるが、旧来の製品は抜け出し防止がない。そのため抜け出し防止のための爪状の金具を取り付けて地震時の対策としている。

○水野吉近副委員長

可児市兼山にポンプ場があるが、圧力をかけずに各務原浄化センターまで自然に流れていくのか。

○川瀬下水道課長

下水道は、自然流下が基本で、地形上の理由などでやむを得ず中継ポンプ場で圧送する場合がある。ポンプ場は、維持管理においてもない方が望ましい。

○水野吉近副委員長

大雨が降った時に雨水が下水道に流れ込むことはないのか。

○川瀬下水道課長

岐阜県の流域下水道では、分流式を採用しており、汚水、雨水が別に流れる。先般の台風などにおいて、東京都などの下水道のように、汚水、雨水をあわせて流す合流式を採用している場合は、雨水が入るとかなりの流量になるが、流域下水道では、雨水は入らず汚水だけが流れてくることになっている。実際には、雨水が流入することもあるが、やむを得ないと考えている。

○藤墳 守委員

説明の中で、下水道の普及率が76.4%とあるが、何年後に目標値95%達成を目指しているのか。

○川瀬下水道課長

95%というのは、汚水処理人口の普及率の目標値。岐阜県汚水処理施設整備構想に基づいて令和7年度までの目標値としている。汚水処理は、下水道、農業集落排水、浄化槽があり、複合的に整備を進めるため、全体として95%を目指している。

○藤墳 守委員

計画は、目標を目指して進めてもらえばいいが、末端までの整備はかなり時間がかかる。財政負担が大きいので、市町村は二の足を踏んでいる。

○川瀬下水道課長

委員ご指摘のとおり、下水道で全て処理することは困難であるため、下水道、農業集落排水、浄化槽で役割分担し、効率的な処理方法を選択しながら目標達成を目指し進めている。

○高殿尚委員長

汚水処理人口普及率は、市町村別にあるか。後ほど情報提供をお願いします。

○川瀬下水道課長

全委員に提供する。

○高殿 尚委員長

先の台風災害の中で、取水口が浸水被害に遭い、水源が流され給水不可となった事例があった。県営水道の水源周辺の管理は林政部か。

○岡田水道企業課長

県営水道の取水施設は木曾川、飛騨川にあるが、取水施設周辺の管理は県営水道では行っていない。

○船坂都市建築部長

県営水道の取水施設は浸水区域には入っていない。

○林 幸広委員

水道管は何年をもって老朽化というのか。

○岡田水道企業課長

水道管の法定耐用年数は40年となっており、それを過ぎたものは経年管という扱いとなる。更新工事が集中しないよう40年を過ぎる前から順次着手している。県営水道は供用開始後43年経過しており、緊急性の高い個所から計画的に更新している。

○藤墳 守委員

水道管の更新方法は、全く新しいものに取り換えるのか。

○岡田水道企業課長

複線化してから更新に着手する。管径80cm以上のものは中に人が入れるため、内面補修を行う。それより細いものは新しいものに取り換える。

○高殿 尚委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって「ライフライン施設の機能強化について」を終了する。本日の議題は終了したが、何か意見等はないか。

(発言する者なし)

○高殿 尚委員長

最後に私からだか、関東等で発生した災害について、今後、岐阜県の検証において、新たに盛り込むべき災害対策等を危機管理部がまとめると思うが、まとまった時点で関連部分を情報提供いただき、来年度の当初予算にも当該対策が反映されているか確認したい。提供はいつ頃となるか。

○野崎建設政策課長

千葉県の災害をはじめ、台風19、21号は復旧復興に向けて始まったばかりで、現在、岐阜県含め、支援や派遣を行っているところである。まずはこちらが最優先であり、その後に、岐阜県として何が足りないのか、何を補うべきかなどを1つ1つ検証することとなるため、提供はまだ先になる。現在策定作業中の次期県強靱化計画には停電対策等、検証をもとにした災害対策を盛り込むよう、危機管理部と調整していきたいと考えている。

○高殿 尚委員長

意見も尽きたようなので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

土木委員会配席図

令和元年11月20日(水)

				小 木 曾 建設業企画監	小 原 建設技術企画監			
--	--	--	--	-----------------------	-------------------	--	--	--

林 企画監	酒井 鉄道高架推進企画監	小池 花フエスタ記念公園 企画推進室長	山口 県営水道経営企画監	加藤 幹線道路企画監	所 道路管理企画監	古田 土砂災害対策監	戸田 技術管理監	辻 技術総括監
----------	-----------------	---------------------------	-----------------	---------------	--------------	---------------	-------------	------------

佐々木 空家対策推進 室長	岩田 公共建築課長	伊藤 住宅課長	幸畑 公共交通課長兼 リニア推進室長	岡田 水道企業課長	山口 水資源課長	川瀬 下水道課長	於久田 用地課長	林 技術検査課長
---------------------	--------------	------------	--------------------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------

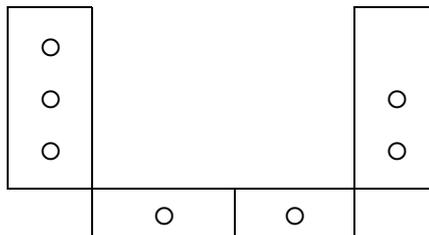
川嶋 建築指導課長	小野 都市整備課長	金武 都市公園課長	水野 都市政策課長	杉下 都市公園整備局 副局長	藤井 道路建設課長	飯島 道路維持課長	広瀬 砂防課長	鈴木 河川課長
--------------	--------------	--------------	--------------	----------------------	--------------	--------------	------------	------------

篠田 都市建築部次長 (技術)	山口 都市建築部次長 (事務)	湯澤 都市公園整備局長	船坂 都市建築部長	宗宮 県土整備部長	松田 県土整備部次長	大野 県土整備部土木技監	野崎 建設政策課長
-----------------------	-----------------------	----------------	--------------	--------------	---------------	-----------------	--------------

平野(恭)委員

野島委員

藤埴委員



高殿委員長 水野(吉)副委員長

林委員

平岩委員

廊
下
側